

# 須 釜 遺 跡

長野県佐久市蓬田須釜遺跡発掘調査報告書

2007.3

佐 久 市  
佐 久 市 教 育 委 員 会

## 例　　言

1. 本書は、佐久市が行う市道A北16号線改良工事に伴う須釜遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査原因者 佐久市　土木課
3. 調査主体者 佐久市教育委員会
4. 遺跡名及び所在地 須釜遺跡（Y S U）佐久市蓬田字須釜・尾尻
5. 調査期間及び面積 調査期間 平成17年12月12日～平成19年3月31日  
調査面積 146m<sup>2</sup>
6. 調査担当者 富沢一明
7. 本書の編集・執筆は富沢が行った。
8. 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

## 凡　　例

1. 遺構の略記号は、住居址(H)・掘立柱建物址(F)・土坑(D)・溝状遺構(M)である。
2. 掘図の縮尺は次のとおりである。下記以外の物については掘図中にスケールを示す。  
竪穴住居址・掘立柱建物址1/80　カマド1/40　土坑1/60　土器1/4　石器1/4・1/3
3. 遺構の海抜標高は各遺構ごとに統一し、水系標高を「標高」として示した。
4. 土層・遺物胎土の色調は、1988年版『新版 標準土色帖』に基づいた。
5. 調査区グリッドの、間隔は4×4 mに設定した。
6. スクリーントーンの表示は以下の通りである。

地山断面



須恵器断面



## 目　　次

### 例言・凡例・目次

### 第Ⅰ章 発掘調査の経緯……… 1

1. 立地と経過…………… 1
2. 調査体制…………… 2
3. 遺構と遺物の詳細…………… 3
4. 基本層序…………… 3

### 第Ⅱ章 遺構と遺物……… 5

1. 溝状遺構…………… 5
2. 土坑…………… 6
3. 調査のまとめ…………… 9

### 写真図版

### 抄　　録



第1図　須釜遺跡位置図 (1:50000)

## 第Ⅰ章 発掘調査の経緯

### 1. 立地と経過

須釜遺跡は佐久市蓬田に所在する。遺跡は八ヶ岳及び鳥帽子岳の火山活動により形成された御牧ヶ原台地東側の丘陵線辺に立地し、現況は東丘陵側に広がる畑地と西に広がる圃場整備水田の境に位置する。遺跡周辺の標高は780m内外を測る。

当地籍からは現在、国重要文化財に指定されている「鉄鍊」が発見されている。この「鉄鍊」は高さ43.4cmを測り、その形態的特徴から平安初期の所産と考えられている。東国における古代の梵鍊例は非常に少なく、また和鐘の初期形態を示している事から非常に希少な資料とされている。この他に、当遺跡周辺では御牧ヶ原窯址群の支群として「須釜原支群」19基が確認され、今回の調査地点周辺部では5基が発見されている。いずれも発掘調査例は無く操業時期は不明であるが、上田市の依田窯址群、東御市の八重原窯址群と同様に国分寺建設に起因する奈良～平安時代の所産と考えられる。

今回、市道改良の為の拡幅工事に伴い佐久市土木課より予定地の遺跡有無について照会があった。佐久市教育委員会では計画路線に接して須釜遺跡及び須釜原窯址群が存在することを回答し、試掘調査を行うこととなった。結果、試掘調査により造構が発見されたため、保護協議の後に記録保存目的の発掘調査を行う事となった。

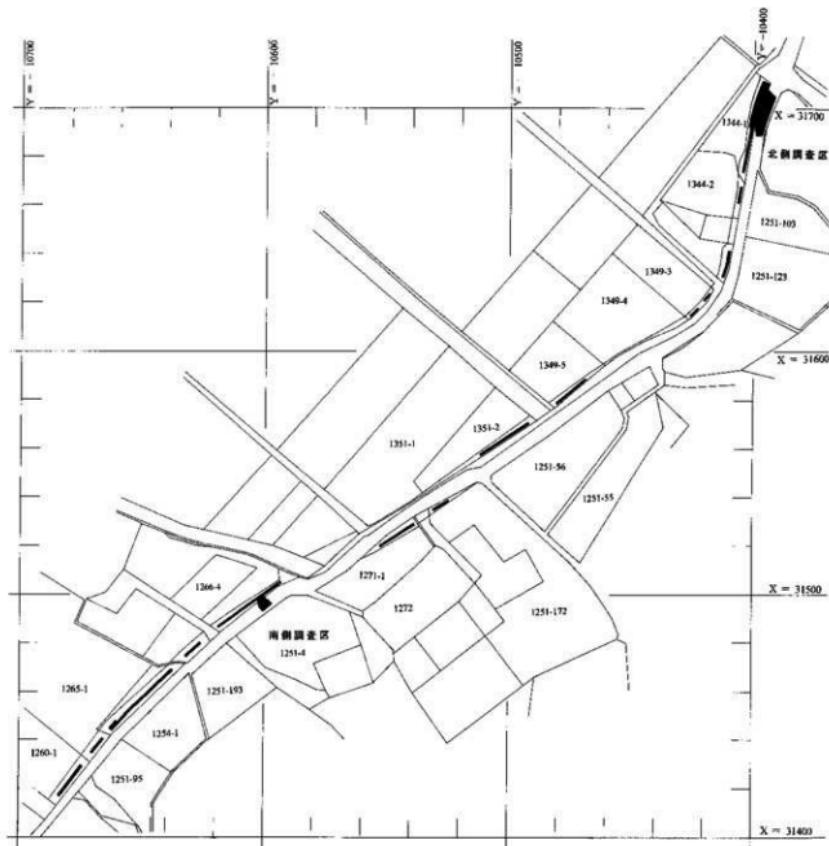


第2図 須釜遺跡周辺遺跡位置図（1：5000）

## 2. 調査体制

調査主体者 佐久市教育委員会  
事務局 教育次長  
社会教育部長  
文化財課長  
文化財調査係長  
文化財調査係

教育長 三石 昌彦  
柳澤 健一 (平成17年度)  
柳沢 義春 (平成18年度)  
中山 哲  
高柳 正人  
林 幸彦 須藤 隆司 小林 真寿 羽毛田卓也  
神津 格 (平成17年10月移動) 富沢 一明 上原 学  
赤羽根太郎 (平成17年10月移動) 出澤 力



第3図 須釜遺跡試掘及び調査全体図（1：2000）

## 調査体制

|       |       |       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 調査担当者 | 富沢 一明 | 柏木 貞夫 | 柏木 義雄 | 菊池 喜重 | 小山 功  |
| 調査員   | 市川 昭  | 中島フクジ | 橋詰 勝子 | 橋詰 信子 | 渡辺 長子 |
|       | 島田 幹子 | 江原 富子 | 小林よしみ | 広瀬梨恵子 | 清水 律子 |
|       | 浅沼ノブ江 | 山田 和子 | 岩崎 重子 | 小林 幸子 | 花岡美津子 |
|       | 萩原 宮子 | 阿部 和人 | 小幡 弘子 | 小林百合子 | 白田 真杉 |
|       | 細萱ミスズ | 碓氷 知子 | 百瀬 秋男 | 清水 美恵 | 柳沢 孝子 |
|       | 佐藤志げ子 |       |       |       |       |
|       | 小林 紗子 |       |       |       |       |

## 3. 遺構と遺物の詳細

|    |      |    |    |         |
|----|------|----|----|---------|
| 遺構 | 溝状遺構 | 7本 | 遺物 | 須恵器・土師器 |
|    | 土坑   | 1基 |    | 近世陶磁器類  |

## 4. 基本層序

今回の遺跡調査対象地は御牧ヶ原台地上であり、いわゆる白色の強粘土を基盤層とする地帯である。御牧ヶ原台地はテーブル状の台地であるが、台地の縁辺は中央よりも高いくわゆる火山の「外輪山」を呈する。この外輪山の高い部分には蓼科山に連なる八ヶ岳火山群を起因すると考えられるローム層が確認でき、この強粘土層はこのローム層の下部を形成していると考えられる。

今回遺跡の確認面はこの粘土層上面であり、耕作土を除去すると粘土層面に褐色土の落ち込みとして遺構が確認された。



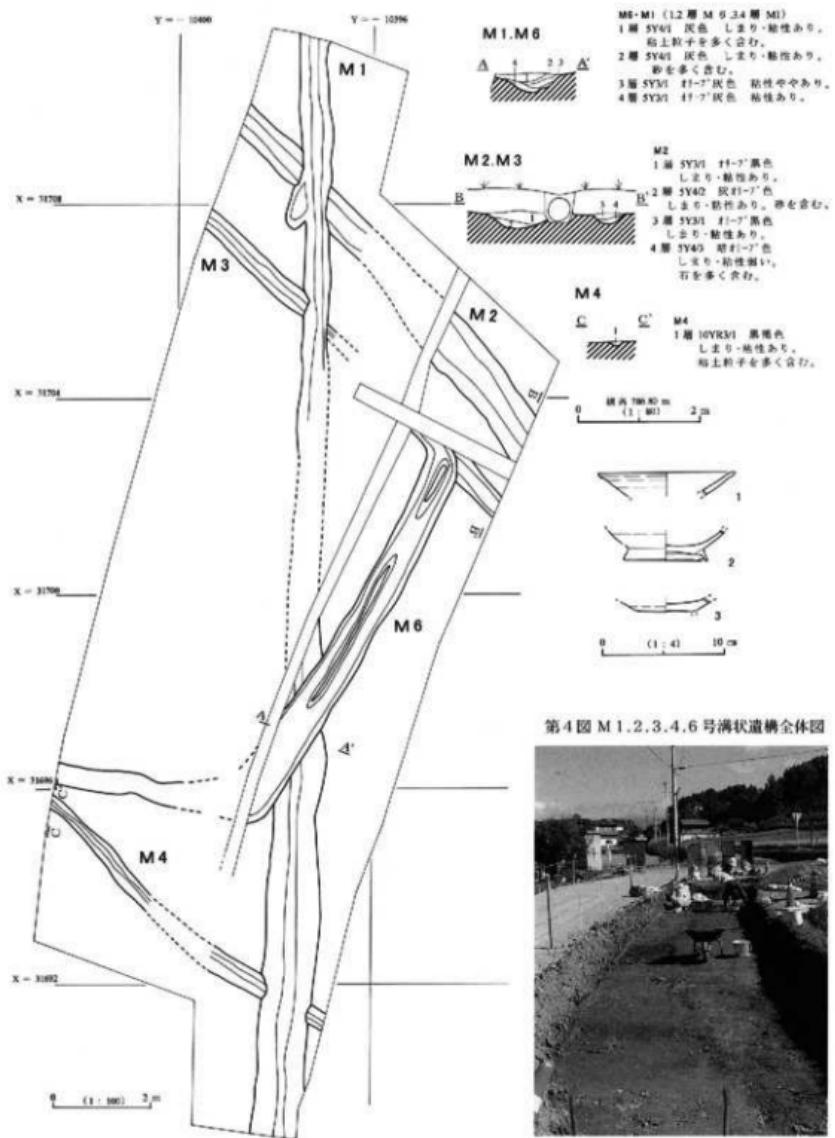
遠くに聳む蓼科山、手前は御牧ヶ原台地の丘陵部



M 1号溝状遺構セクション



M 5号溝状遺構セクション

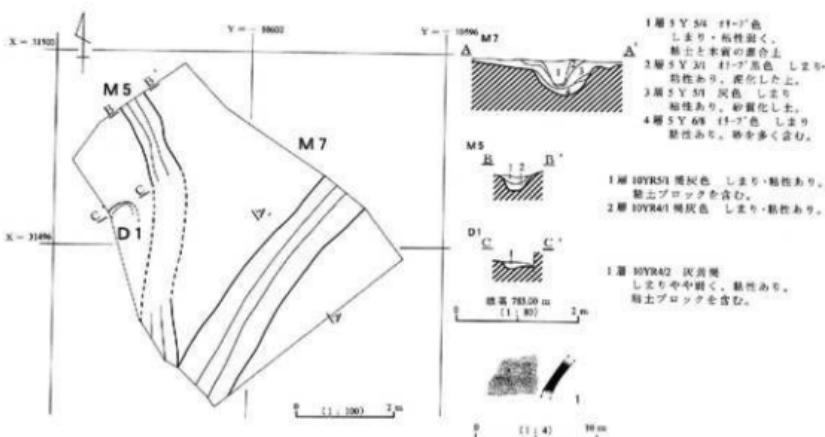


第4図 M1,2,3,4,6号溝状遺構全体図



発掘調査風景

## 第Ⅱ章 遺構と遺物



第5図 M5.7号溝状遺構、D1号土坑全体図

### 1. 溝状遺構

#### (1) M 1号溝状遺構

北側調査区を南北に貫くように検出された。規模は検出長が22.5m、最大幅1.1m、深さは最大で40cmを測る。北端と南端の標高は併に786.4mで高低差は無かった。覆土中には腐食していない植物の葉等が混入しており、遺物は染め付けの近世陶磁器片が1片出土した。

本址は地元の方の話で昭和20年前後まで周辺部水田に水を引くための水路として使用しており、道路拡幅で使用をやめたものと解った。

#### (2) M 2号溝状遺構

北側調査区を東西に横断するように検出された。規模は検出長が8.5m、最大幅1.1m、深さは最大で20cmを測る。溝底面の高低差は西側へ地形に沿って低くなっていた。遺物は図示した3点の土師器壺が出土した。1は土師器壺皿で口縁部のみ残存しており、内面黒色処理が施されていた。2は土師器高台壺で内面黒色処理されていた。3は土師器高台壺であるが高台部は欠損していた。内面黒色処理されていた。

#### (3) M 3号溝状遺構

北側調査区を東西にM 2号溝状遺構とほぼ併走するように検出された。規模は検出長が8.5m、最大幅0.5m、深さは最大で14cmを測る。溝底面の高低差は西側へ地形に沿って低くなっていた。遺物は図示できなかったが内面黒色処理を施した土師器壺1点が出土した。

#### (4) M 4号溝状遺構

北側調査区を東西にやや湾曲するように検出された。規模は検出長が7.2m、最大幅0.5m、深さは最大で20cmを測る。溝底面の高低差は西側方向へ地形に沿って低くなっていた。出土遺物は無かつた。

#### (5) M 5号溝状遺構

南側調査区を南北にやや湾曲しながら貫くように検出された。規模は検出長が5.3m、最大幅0.7m、深さは最大で24cmを測る。溝底面の標高は南北の端でいずれも782.6mで高低差は無かった。

本址からの出土遺物は無かった。

#### (6) M 6号溝状遺構

北側調査区中央で「コ」の字状に検出された。M 1号溝状遺構と重複関係にあり、本址の方が新しい。規模は検出長が12m、最大幅0.8m、深さは最大で10cmを測る。溝底面は一部2本に分かれるようになっており、東側の溝部分で写真に見るように木杭が検出された。

本址からの出土遺物は図示した須恵器壺頸部片が出土したが、本址の帰属時期は遺構の新旧関係から現代に近いものと考えられる。

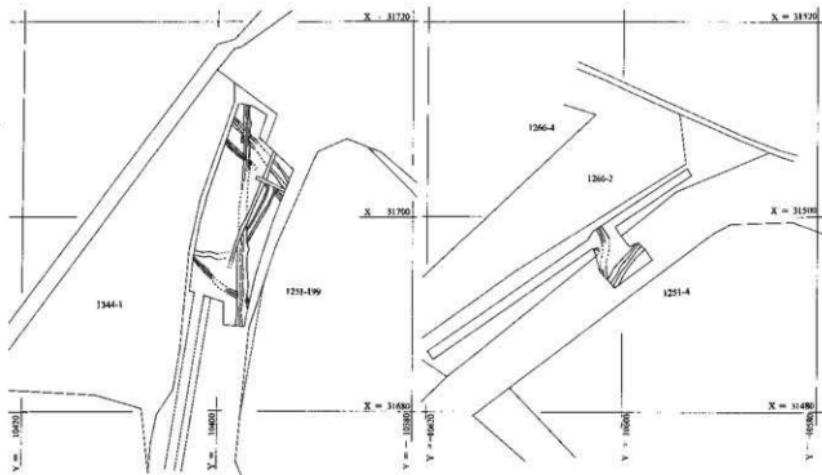
#### (7) M 7号溝状遺構

南側調査区を北東から南西に貫くように検出された。規模は検出長が5.0m、最大幅1.0m、深さは最大で50cmを測る。溝底面の高低差は北側が11cmほど低かった。本址は覆土の堆積状況より何度かの掘り直しが行われていた。また覆土1層からは腐食していない葉が混じっており、4層上面からは写真に示した近現代陶器類が出土した。よって、丘陵地形を沿うように検出されたことや、北側調査区のM 1号溝状遺構の覆土にも似ることから、M 1号溝状遺構と同じく昭和20年前後まで周辺部水田に水を引くための水路としての使用が考えられる。

## 2. 土 坑

#### (1) 1号土坑

南側調査区で検出された。規模は長軸50cm、深さ5cmを測る。南側がほとんど削平されているため詳細は不明であるが、覆土はM 5号溝状遺構に似る。出土遺物は無かった。



第6図 北側調査区全体図 (1 : 500)

第7図 南側調査区全体図 (1 : 500)



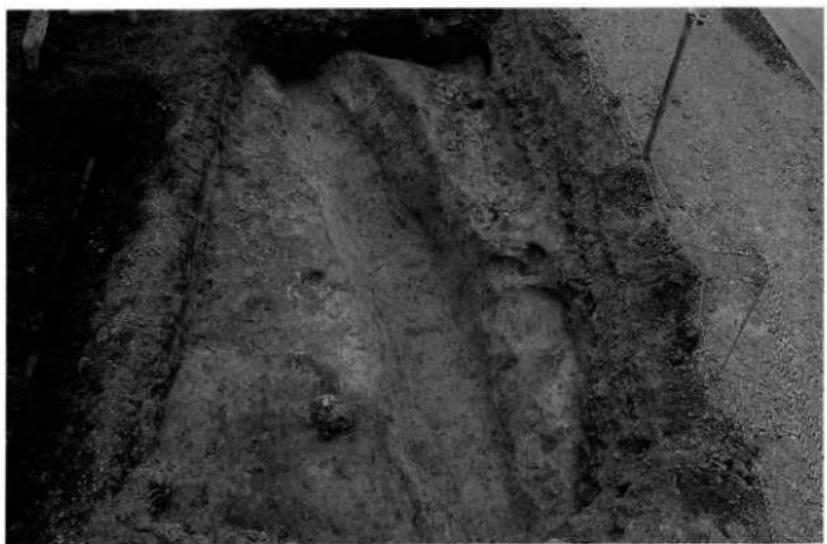
M 1 号溝状造構全景（北より）



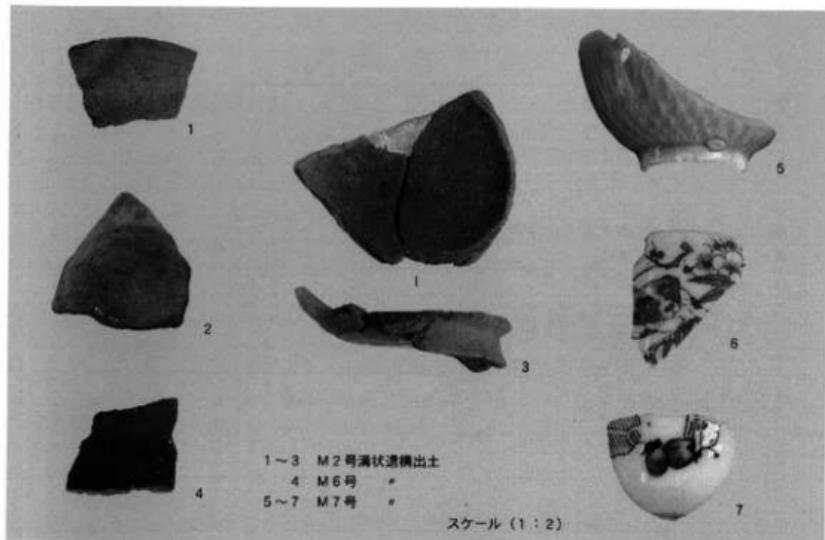
M 6 号溝状造構全景（北より）



M 2・3号溝状造構全景（西より）



M 5・7号溝状造構全景（北より 奥がM 5号溝状造構）



須釜遺跡出土遺物

### 3. 調査のまとめ

今回の発掘調査は $146m^2$ という極めて小規模な発掘調査であったが、旧浅科村エリアの御牧ヶ原台地では初めての発掘調査となつた。開発対象地域が須釜原窯址群の中央を走る市道改良であり、また地元の方々の話でも市道脇民家の裏などに窯址がかつて存在した話などがあったため、当初は窯址発見の期待もかかったが、結果、溝状造構の検出にとどまつた。しかし、近現代に連なる溝もあったが、出土遺物や覆土の状況からM 2. 3. 4. 5号溝状造構は帰属が古代と考えられ、M 2号溝状造構出土の土師器壺類から9~10世紀、平安時代の所産時期が類推できた。これら的事は、先に「立地と経過」でも述べたが、上田市の依田窯址群、東御市の八重原窯址群、そして御牧ヶ原窯址群の成立年代と重なり今回の調査結果は須釜原支群の窯址が9世紀から10世紀に操業していた可能性を指摘できる一資料になるのではないかどううか。

なお、今回調査されたM 2. 3号溝状造構の性格であるが、今回の調査地点は中山道八幡宿から御牧ヶ原台地を通り、旧東部町に抜ける県道御牧原・蓮田線上にある。この路線は八幡宿を起点に南は通称「根際道」を通り野沢平で佐久甲州街道に合流し、八幡宿の東西は中山道が通っている。時代も成立背景も異なるそれぞれの道筋であるが、今回調査の溝状造構を西から眺めるとその先は御牧ヶ原台地に駆け上ってくる県道の旧道方向に延びるようにもみえ、本址が道路関連の造構として一考の余地があるのではないかと考えた。

以上、調査のまとめを述べたが、あまりにも調査が小規模でまた検出造構も溝状造構ということもあり難ばくなまとめとなつたが、当地域は今回述べなかつた古代「望月の牧」推定地のひとつでもあり今後の調査資料の増加が期待される地域である。

## 報告書抄録

|         |   |
|---------|---|
| 書名      | 須釜遺跡  |
| ふりがな    | すがまいせき  |
| シリーズ名   | 佐久市埋蔵文化財調査報告書   |
| シリーズ番号  | 第145集   |
| 編著者名    | 富沢一明  |
| 編集・発行機関 | 佐久市教育委員会  |
| 発行年月日   | 2007. 3. 31   |
| 郵便番号    | 385-0006  |
| 電話番号    | 0267-68-7321  |
| 住所      | 長野県佐久市志賀5953  |
| 遺跡名     | 須釜遺跡 (Y S U)  |
| 遺跡所在地   | 佐久市蓬田1344-1B他   |
| 遺跡番号    | 旧浅科村  |
| 緯度      | 36-17-08.3647 (世界測地系)   |
| 経度      | 138-23-03.3658 (世界測地系)  |
| 調査期間    | 2005.12.12～2006.9.27 (現場)<br>2005.12.25～2007.3.31 (整理)                        |
| 調査面積    | 146m <sup>2</sup>   |
| 調査原因    | 市道A北16号線の改良工事   |
| 種別      | 散布地   |
| 主な時代    | 平安時代  |
| 遺跡概要    | 遺構 溝状遺構7本(平安～近世) 土坑1基(時期不明)<br>遺物 土師器・須恵器                                     |
| 特記事項    | 御牧ヶ原台地上で窯址やいわゆる「野馬除跡」をのぞくと初めての遺構検出となった。溝状遺構の帰属時期は平安時代と考えられるが、遺構の性格については不明である。 |

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第145集

### 須釜遺跡

2007年 3月

編集・発行 佐久市教育委員会  
 〒385-8501 長野県佐久市中込3056  
 文化財課  
 〒385-0006 長野県佐久市志賀5953  
 TEL 0267-68-7321

印刷所 キクハラインク有限会社